

## 令和元年度 学校評価総評

1. 今回の学校評価で充実していると評価できる事項は、次のとおりである。

### 1) 学生の基礎学力の向上に対する取り組み

国立病院機構および母体病院の理念に基づき、きめ細やかな教育への取り組みがなされた。平成30年度の自己点検・評価を基に、改善のために努力している。特に昨年度の国家試験不合格者6名ということに対して、その要因分析を行い基礎学力の向上を図るために、様々に具体的な取り組みを実施している。最終的に97.2%（2名不合格）であったが、平素の授業・演習・実習などの教育・指導に対する教員の意識改革を始め、外部講師、実習施設、予備校教師による補講対策など、具体的に計画し緻密に取り組みが成されたことは評価に値する。

### 2) 教員など、教育者側の意識改革と人材育成

基礎学力の向上は元より、「学生の看護実践力の育成」、「専門職業人としての倫理観の育成」の強化目標を設定し、様々な取り組みがなされた。昨年度の卒業時アンケートにおいて「基礎専門分野の教育内容に満足している」、「実習の教育内容に満足している」、「わかりやすい授業が多い」の3点が低値（3以下）であった、非常勤講師へのフィードバック、講師の見直しと変更、実習事前準備の見直しと改善、教員、指導者の研修の推進など、様々な改善策を計画、実施した。その結果卒業時の学生アンケートは全ての項目が向上し、特に「学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である」、「全体的にみて、本校で学んだことに満足している」が高値を示しており、その成果が表れたものと解釈できる。

### 3) 質の高い学生の確保と社会貢献

高校卒業生が減少、看護大学が急増する中、質の高い学生の確保と国立病院機構及び県内への就職という社会貢献に努力している。「質の高い学生の確保」対策として、推薦指定校の見直しと変更、教員による指定校訪問などを実施し、一定数を確保できている。また、国立病院機構及び県内への就職率は合計で90%を超えており、高く評価できるものである。また、卒業生に対して、離職予防を見据えて早期に「里帰り」を企画し実施していることも、社会貢献として評価できる。

2. 今後、課題となる点について

### 1) 1年次における教育指導体制、環境の整備

年次を上がるごとにカリキュラム評価は上昇しているが、1年次は3点未満の低得点項目が7項目あり、平均値も2.9点となっている。内容的に教科の内容が難しい、教員のサポート体制が不足しているというものであった。看護という専門分野に適応していくための工夫やサポートが必要と考えられる。基礎的な学力向上とともに適応過程に対する支援体制を整備されたい。

### 2) 中長期的な財務管理について

大型校へ移行して10年を経過している。学生のカリキュラム評価の自由記述からも様々な設備や図書の実充への希望が散見されていること、2022年度のカリキュラム改正においてICT（情報通信技術）科目が増設されることから、更なる調整や計画を期待したい。

## 令和元年度 養成所評価

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

|                | 自己評価   | 学校関係者評価  |
|----------------|--|--|
| I. 教育理念・目標     | 3.0  | 3.5  |
|                | 地域が当校に求めるものを明らかにし、地域に貢献できる学校経営の中長期ビジョンを明確にする                                   | 施設の教育理念、目的、人材像は明確である。更に学生、地域に対する周知を図っていく必要がある。   |
| II. 学校運営       | 4.0  | 4.0  |
|                | 業務分担の見直し、勤務管理システム導入による正確な勤務状況の把握と超過勤務削減し、働き方改革の基づき職員の業務の効率化に対する意識の向上および業務改善する  | 事業計画に沿った運営方針が策定され、業務規程に則って、適切に運営されている。教員の勤務体制、年休等の取得等、適切に対処されている。                                    |
| III. 教育活動      | 3.8  | 3.8  |
|                | 教員の専門分野の研究の機会を確保し計画的な伝達講習、研究の質の向上により教育の質を向上させる。また、臨床研修を計画し、教育の質を向上させる。         | 教育理念、目的に沿った教育を常に見直し、熱心な教育活動が展開されている。更に教員に対する研究環境の充実を図られたい。   |
| IV. 学修成果       | 3.0  | 3.5  |
|                | 機構内での就職内定者率が減少している現状があり、今後は機構内と県内就職率を80%維持していけるよう県内の病院の就職についての情報収集も行っていく必要がある。 | 国家試験に対する対策を重ね、合格率の向上が認められた。退学者は増加しているが、丁寧な指導が行われ進路変更がなされている。学習成果を見極めるための里帰りの企画、関連施設との情報交換が適切に行われている。 |
| V. 学生支援        | 3.8  | 3.8  |
|                | 里帰り企画は1年目の離職率が高いと言われている6月～7月に実施した。今後は在学中から卒業後に相談ができる母校になれるような取組みを行う。           | 学生に対する生活指導、進路相談、健康管理等が細やかに行われている。保護者、卒業生に関してもニーズを把握するように努め、連携を取っている。また、卒業時のカリキュラムに関する満足度も向上している。     |
| VI. 教育環境       | 3.3  | 3.3  |
|                | 大型校となり10年が経過しているため、施設・設備に不具合が生じていく可能性あり。職員、学生が不具合の発生に注意し、常に丁寧に施設、設備を使用する       | 施設設備の点検、修理等に対する迅速な対処を期待したい。  |
| VII. 学生の受け入れ募集 | 4.0  | 4.0  |
|                | 教員の高校訪問等、募集活動を継続し、学校説明会見学者は増加しているため、学生確保に繋げる。                                  | 学校説明会やその内容の検討が適切に実施され、成果を上げている。  |
| VIII. 財務       | 3.3  | 3.8  |
|                | 地域医療介護総合確保基金事業費補助金を満額獲得できている。不足分は母体病院の補助を受けている。必要な教材は計画通りに試行する。                | 適切に管理されている。学習に必要な物品に関する整備を引き続き、計画的に予算執行していただきたい。   |
| IX. 法令等の遵守     | 3.6  | 3.8  |
|                | 学校の情報管理強化を行う。ハラスメント規定を作成している   | 法令を遵守し、運営されている。  |
| X. 社会貢献・地域貢献   | 4.0  | 4.0  |
|                | 学生自治会を通してのボランティア活動の奨励している  | 学生は、学生祭、病院のクリスマス慰問、ボランティア活動への参加、教員は地域教育活動に参画し、大いに貢献している。   |